

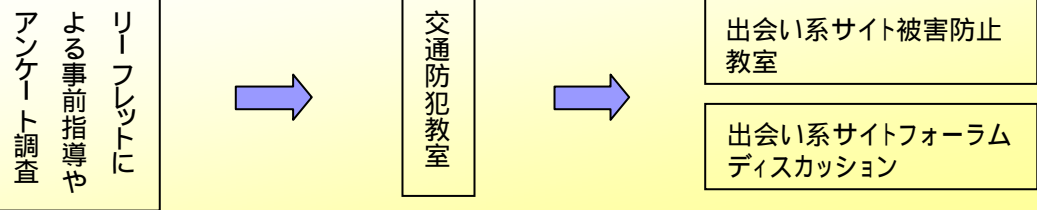
事例7「関係機関と連携し、交通違反や出会い系サイトでの被害の阻止等を行う取組」（中学校）

取組のポイント

開かれた学校づくりを目指し、警察や少年補導センターといった関係機関の協力を得て、交通防犯教室などの非行防止教室を実施した。

また、夏休み中の問題行動防止のため、交通防犯教室については夏休み前に実施し、時宜を得た取組を実施した。

活動の流れの概要



教育課程上の位置付け

事前指導（特別活動、学級活動）

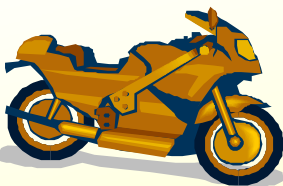
出会い系サイト被害防止教室、出会い系サイトフォーラムディスカッション（特別活動）

事後指導（特別活動）

実施までの経緯

・近年、中高生も暴走族に参加したり、予備軍的な行動が増加していることが危惧されている。

また、出会い系サイトを使用した児童買春や、それにかかわる犯罪などによる未成年者の被害も重大である。



・子どもたちの規範意識を向上させることが必要



事前の取組

・携帯電話の使用についてアンケートの実施

・また、交通防犯教室についても、事前に指導を行い、基本的な知識を身に付けさせておく

・警察や少年サポートセンターといった関係機関の職員と事前の打ち合わせを行い、ねらいや指導内容の確認・調整を行う



非行防止教室の開催

< 交通防犯教室 >

- ・県警の作成した中高生対象のビデオを視聴
- ・交通課長と生活安全課長が協力して、暴走族の現状、暴走族に加わったり、暴走行為に参加することの恐ろしさ、また、反社会的行為を絶対にしないこと生徒に教える。

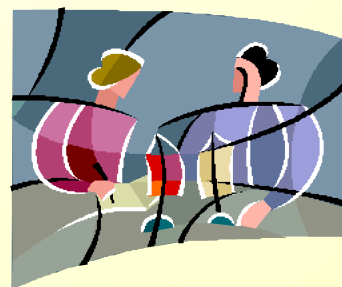


< 出会い系サイトフォーラムディスカッション >

形式

生徒と少年サポートセンター、警察署の補導員によるディスカッション形式

- ・適宜会場から質問や意見等を受け付け、全体が参加できるようにする。
- ・事前指導のアンケート調査の結果を適宜活用し、会場にも問いかけながら問題点を共有していく。



最後にポイントをまとめる

- ・出会い系サイトにはどんな理由があろうと絶対にアクセスしない
- ・嘘であろうと冗談であろうと、どんな理由があっても絶対に出会い系サイトに書き込みをしない
- ・出会い系サイトを利用している友達がいれば、必ずやめるように助言してあげる

事後の取組み

特別活動(HR等)を活用し、担任等が規範意識の向上のための指導を引き続いて実施するとともに、交通機動隊職員などの外部講師を招き、交通安全等について正しい考え方を持たせるため講義を行う



本プログラムの活用により期待される効果と活用上の留意点

成果

- ・夏休み前に交通・防犯教室を実施したところ、夏休み中に問題行動は発生せず、規範意識が高まったと考えられる。
- ・出会い系サイトでの問題行動は報告されておらず、出会い系サイトに関する意識が高まった。

留意点

- ・非行問題は多岐にわたり、中学校だけでの指導が困難になると予想されるので、学校と家庭、関係機関・地域社会との連携がより一層重要になるとともに、各機関ごとの役割の明確化が必要である。このような非行防止教室の機会も利用して開かれた学校づくりを進め、地域との連携を図っていくことが重要である。